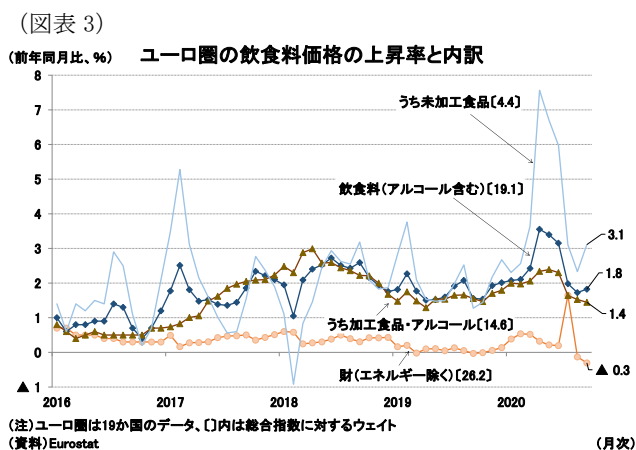


なり（8月▲0.1%→9月▲0.3%）、やや高めの物価上昇率を記録していた「サービス」も3か月連続で1%を割って推移している（8月+0.7%→9月+0.5%）（図表2）。細かい品目が公表される8月までの動向をみると、コロナ禍の影響を大きく受ける「外食・宿泊」での減速が目立つほか、足もとでは「娯楽」のインフレ率も低下している。

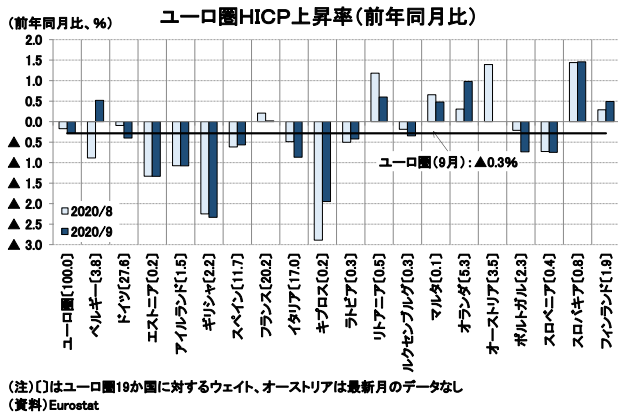
前月比では、コア部分でプラスに転じている（8月▲0.6%→9月+0.2%）。「エネルギーを除く財」が+2.8%（前月▲1.6%）、「サービス」が▲1.2%（前月+0.0%）となり、財とサービスで方向感が異なるが、財価格の押し上げは値引きシーズンが終了したことが一因と見られ、総じてインフレ率圧力は弱い状況が続いている。

「エネルギー」は、9月は前年同月比▲8.2%（前月▲7.8%）、前月比▲0.4%（前月+0.0%）、前年同月比寄与度で▲0.84ポイント（前月▲0.77%ポイント）で、引き続き全体のインフレ率を低下させている主因となっている（前掲図表1・2）。一方、「飲食料（アルコール含む）」は前年同月比で+1.8%（前月+1.7%）とやや高めではあるが、弱い動きとなっている（図表3）。

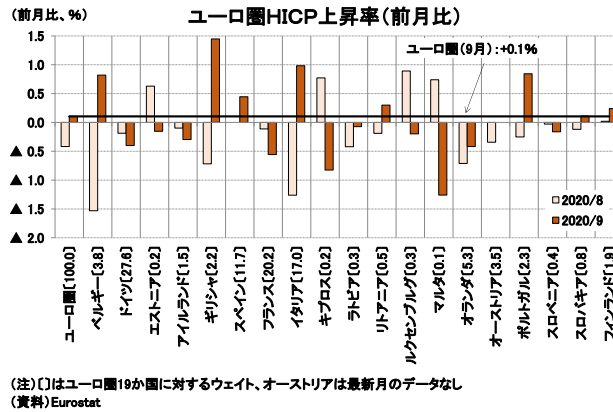
9月はエネルギー価格の低迷が続くなかで、「コア部分」のインフレ率が減速を続けたために、全体のインフレ率のマイナス幅が拡大したことになる。



(図表4) ユーロ圏HICP上昇率(前年同月比)



(図表5) ユーロ圏HICP上昇率(前月比)



国別のHICP上昇率を見ると（図表4・5）、9月は前年同月比で未公表のオーストリアを除く18か国中11か国が減速し、また11か国がマイナス圏という状況にある。経済大国であるドイツがVAT引き下げ効果などから▲0.4%まで低下している⁴ことに加えて、イタリアも▲0.9%にマイナス幅を拡大、フランスはかろうじてプラス圏にあるものの+0.0%とインフレ圧力は弱い。

ユーロ圏では財・サービスを問わず物価上昇圧力が減っており、「コア部分」の上昇率がかなり弱い。為替もユーロ高傾向が続いているため、エネルギー価格を中心にデフレ圧力が強まる可能性もあり、総合指数では引き続きゼロ%前後での推移が続くだろう。

⁴ 7月から税率で19%→16%（軽減税率は7%→5%）への引き下げを12月まで実施する予定。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。